

「ステキな視界・新たな世界」展
三重県立美術館コレクションより
2004年7月10日[土] - 8月29日[日]

わたしたちは芸術作品に何を求めているのでしょうか。心のやすらぎ？余暇の楽しみ？知識欲？——ときには教養の一部として、映画やクラシック音楽や小説などを我慢して見たり聞いたりしている自分があります——いろいろ思い浮かべることができませんが、なかには「芸術が自分を変えてくれるかもしれない」という期待を抱いたことはないでしょうか？

服を新調したときや部屋の模様替えなどは、ごく日常的でささやかな自分の変化の範疇にはいるでしょう。でも、もっと根本からの変化を望むならば、すでに凝り固まった自分の見方や考え方を打ち破る必要がでてくるかもしれません。そのような気持ちになったとき、芸術は自分を変えてくれる絶好の機会となりえます。

とくに美術作品は、私たちに思いがけない視覚体験を提供してくれることがあります。ふだんから眼にしているも、気づかずに見過ごしてきただけで、じつは私たちの日常の体験を超えた世界がいくつもあるからです。

芸術家たちはそういった新たな視覚世界を求めるために、さまざまな体験を積極的におこないます。そしてそれは、日常とは別天地に取材することであったり、人やものとの積極的な交流であったり、また、自己の内面世界を深く洞察することであったりと、個性と時代によって、さまざまな方法があります。そして、こんな体験をもとに、たえず制作しつづけることによって、芸術家たちはより視覚世界をより自在にあつかい、それによって豊かな世界をつくりだしているのです。

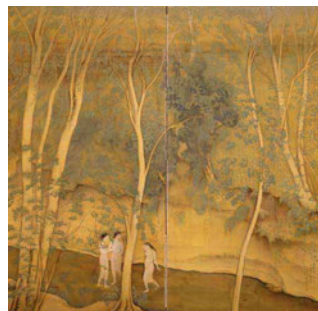
今回のこの展覧会は三重県立美術館の収蔵作品のなかから、1, 異国にて/画家のまなざし 2, 身の発見/日常の冒険 3, 空想/憧憬 4, 未知の世界へ という4つのセクションを設け、それぞれにふさわしい作品を選んで構成展示します。「つくる」という創造行為をふかめることによって生まれてくる、作家自身の体験をも超えた思いがけない別世界。この機会に是非「自分が変わるかもしれない」作品と出会ってください。(Ty)



佐伯祐三《サンタンヌ教会》1928(昭和3)年



森芳雄《大根など》1942(昭和17)年



宇田荻椰《木陰》1922(大正11)年



堀内正和《水平の円筒》1959(昭和34)年